

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成 21年 3月 5日
調査実施の時間	開始10時 00分 ~ 終了 15時 30分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム陽 (大分県)
評価調査員の氏名	氏名 田中 努
	氏名 蛭子 一紀
事業所側対応者	職名 管理者
	氏名 田原 房江 ヒアリングを行った職員数 (2)人

○項目番号について
外部評価は30項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
[取り組みを期待したい項目]
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。
[取り組みを期待したい内容]
「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 3月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4470500408
法人名	社会福祉法人 長陽会
事業所名	グループホーム 陽
所在地	佐伯市大字長良4642番地の151 (電話) 0972-28-3322

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構
所在地	大分県大分市顕徳町2丁目1番5号
訪問調査日	平成21年 3月 5日

【情報提供票より】(21年2月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 8 人
職員数	6 人 常勤 6人, 非常勤 人, 常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		880円

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	8 名	男性 名	女性 8 名
要介護1		名	要介護2 3 名
要介護3	5 名		要介護4 名
要介護5		名	要支援2 名
年齢	平均 88.9 歳	最低 84 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松下医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 1 陽の名のごとく、明るく広々とした室内と、落ち着いた純和風建築の外観で、ゆっくりと安心して暮らせる場所となっています。
- 2 地域を大切にし、地域から愛される施設を目指し、地域から頼られる関係が来ています。
- 3 管理者をはじめ、職員全員が認知症ケアに対して前向きであり、利用者主体のサービス提供に日々努力しています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の評価結果を基に、改善計画をつくり、職員全員で具体的な改善への取り組みが見受けられます。
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価は、管理者を中心に職員全員で話し合い、作成されています。 ・評価を進める中で、日常のケアの振り返りや見直しができ、改善へとつながっています。
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2ヶ月に一度運営推進会議を行い、利用者の状況報告や、ケアのあり方、地域交流の促進を話し合いサービス向上に努めています。 また外部評価の結果の報告や取り組みについても話し合いを行っています。
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に一度、家族会を行い、遠方の家族には広報誌や手紙、電話にて利用者の様子を知らせ、意見や要望を話し合っています。また2ヶ月に一度福祉サービス相談委員会を行い、苦情や相談を受けて、サービスの向上へ努めています。
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事やお祭りには利用者と共に参加し、法人のお祭りには地域の方の多くの参加があり、楽しみの1つとなっています。 ・ボランティアの受け入れや、美化活動にも力を入れ、積極的に地域との交流に努めています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基本とし、職員全員で事業所独自の理念をつくりあげ、リビングから見やすい位置に掲示されています。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、毎朝の朝礼やミーティング、申し送り等を通じ、職員間で共有されています。利用者との接し方、サービス提供場面でも、理念に基づいた支援が行われているのが見受けられます。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りや行事等に積極的に参加し、リサイクル活動や環境美化活動にも力をいれています。また、小中学校、高校、地域のボランティアとの交流に努めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は、管理者を中心に職員全員で取り組んだ姿勢が何われ、評価を進める中で、チームケアの再確認や支援の方法等改めて気づき、課題を感じ受け、その課題解決に努力されている状況が見受けられます。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議を2ヶ月に一度行い、利用者の生活状況の報告をすると共に、メンバーから色々な意見を受け職員全員でサービスの向上に取り組んでいます。運営会議をホームの心強い応援者として活用しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員とは、1年に数回ほど交流があり、問題が起こった時などは随時相談に上がるなどの対応をしています。また、研修会等には積極的に参加をし、市町村との連携を深めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度発行する広報誌や家族会、職員からの手書きの手紙で定期的な報告を行っています。利用者の心身状況や問題が起こったときなどは、電話あるいは家族に会って迅速に対応されています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人の福祉サービス相談委員会を2ヶ月に一度行って苦情や相談を受けています。毎月行われている家族会で家族の意見を引き出し、その意見・要望は職員間で共有し対応されています。来苑カードを設置し、意見・要望などを出しやすいように工夫されています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での移動の際、利用者の混乱を防ぐために、他の部署との交流を行い馴染みの職員が継続的に支える体制が取られています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は年間数回行われて、その研修に参加できない職員のため朝礼、勉強会等において研修内容の共有が行われています。また、職場内研修を週1回行い職員同士チームとしての資質の向上に努めています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームとの相互訪問や、他の施設職員の見学を受け入れ情報交換や交流を図っています。また管理者は大分県老人福祉施設協議会のグループホーム専門委員会にも役員として参加し、サービスの質の向上に努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	サービス開始前から双方間で訪問を繰り返し、家族、利用者の安心と信頼を得ています。また家族の理解の基、生活歴などの把握を行い入居者の受け入れもスムーズに運ぶように馴染みの関係作りを心がけています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	利用者の生活歴からアドバイスをもらったり、能力に合わせた支援の中で共に支え合う場面作りを工夫しています。職員はこだわり、苦しみ、不安に寄り添い、楽しみに共感しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	自由にその人らしく生活できるように希望や意向の把握に努めています。利用者の独り言をととても大切に、職員で共有してその後の支援方針に活かされています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	家族の訪問時や月に一度開かれる家族会でケアの目標やあり方についての話し合いを持つと共に、希望や意向を把握し、職員全員で介護計画を作成しています。		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3ヶ月に一度もしくは6ヶ月に一度での見直しを行い、状態の変化があった場合には、医師や家族、職員で相談のうえ、より現状に即した計画の変更に取り組まれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その日の利用者の心身の状態や要望、家族の希望に合わせ、美容院、通院、買い物、訪問等臨機応変の対応を心がけています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診が月に2回あり、緊急時においても素早い診察が可能で適切な医療が受けられています。また、専門外の病院への受診も紹介状で対応できています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時や重度となった際に家族と終末期に向けた話し合いを行い、家族と確認の書類を交わしています。現在ターミナルケアは実施していませんが、家族、主治医と話し合いの中で、家族の意向にそった対応を心がけています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のケア記録など、個人情報にはシャットアウトに直され、他部署の人も許可を頂かないと見れない仕組みになっています。利用者の居室も利用者の許可なく勝手に入室せず許可を頂き入室しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を優先し、そのつど要望に対応しています。週に一度職員間で話し合いが設けられ情報の共有ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを把握し、選択メニューとは別に食べたい物の訴えがあれば臨機応変に対応し、2～3日後にはそのメニューが食卓に並ぶ仕組みができています。また、円卓を使用しているため、お互いに笑顔を見ながら会話ができていてとても良い雰囲気が伝わってきます。片付けも職員と一緒に取り組んでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回を基本とし入浴を行っていますが、利用者の体調や希望にあわせた変更にも対応しています。ゆず湯、薔薇湯、菖蒲湯や音楽を流すといった入浴を楽しむ工夫がされています。また、浴槽を暖めたり脱衣所の温度調節、滑り止め等の安全対策もできています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者から洗濯干し、たたむなどの協力や調理の作り方、味のつけ方のアドバイスを頂くなどの一人ひとりの生活歴や特技を活かした役割分担がなされています。役割が負担とならないように配慮した楽しみごとの支援がされています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には近くのグラウンドや畑などに出かけ地域の方とのコミュニケーションがとれています。利用者の体調や気分に応じ買い物やドライブ、美容院等の個人的な状況にも対応しています。また、外出したい時はそのつど職員が付き添い支援をしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常的に居室や玄関等開放され、施錠はされていません。帰宅願望のある利用者さんには職員が寄り添いスキンシップや話題を変えるなどで対応され、一人ひとりの行動や気持ちをよく理解し見守りしながら支援に取り組んでいます。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月に1回の避難訓練が行われ、施設内に非難マップが掲示されています。また、災害時には法人が地域の避難場所となっており、地域の協力も得られています。備蓄については、3日分の水分と食料を確保しており、栄養士により管理されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導により利用者の状態に合わせた食事を提供しています。また、刻みにする際も最初にその食べ物の原形を見て頂き、それから刻みにするなどの配慮もされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは天井が高く天窓もあり、明るく開放的な雰囲気を保っています。行事などの写真をアルバムとして掲示し、見ているだけでもその時の楽しそうな雰囲気が伝わってきます。また、家族や職員が持ってこられた花がたくさん活けてあり、居心地のよく過ごせる工夫がされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたソファや寝具を使用し、馴染みのダンスや仏壇が持ち込まれるなど、今までの生活歴を活かした安心して過ごせる部屋づくりが感じられます。利用者の好みに合わせた模様替えを行うなどの工夫がされています。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したようになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム陽
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	大分県佐伯市
記入者名 (管理者)	田原 房江
記入日	平成 21年 2月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	昼間は働いている地域の人が多く日常的には困難なことが多い。併設の他部署の入居者との交流を含むお付き合いは出来ている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	今地域のボランティアとして施設に来て押し花、ダンス、本の読み聞かせなど楽しみや喜び事の交流の場を提供してくれている。又、地区の生き生きサロンなどの行事にもコスモスの入居者と共に出掛けている。今後も参加人数を増やしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人全体での取り組みとして、老人会や集会などの地域の人々が集まる場所で、福祉や施設の説明、介護保険の利用等についての話をさせて頂き、見学希望の方には送迎の提供もしている。	○	今後はGH独自で実施できる介護者教室等を計画したいが、立地している地区内での活動は困難なことが多いので広報域を少しでも広げたい。
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員で、昨年の評価を活かし改善できる点や必要な項目について話し合い、早めの対策を取り活かしていく努力をしている。又、状況に応じて改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行い、入居者の生活状況を報告すると共にサービスの提供について話し合いを行なっている。各委員や家族の意見を参考にし、サービス向上に取り組んでいる。会議の中で外部評価表の開示も行なった。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の職員、及び包括支援センターの職員に協力をして頂き、解らない事はTELで相談や助言を求めたりしている。又、市の主催する研修会等には、積極的に参加している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	各研修会等に参加を行い、又、市役所に出向いて必要な資料をもらうなど学んでいる。まだ活用には至っていないがその意は志している。	○	本人様の意向と意が固まれば、成年後見人制度を活用したい該当者がいる。その働きかけはしている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会や話し合いを行い常に意識向上に努め、日常業務の中で管理者、職員共に防止についての思いを共有している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約については重要事項説明やその他入所前における施設の取り組みやケアの内容を話す機会を設けている。まだ理解納得の中で行なわれて同意を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の日常生活の中で不安や意見は耳を傾けて本人のニーズに添った思いを誰にも話せる雰囲気作りをしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	日常の訪問時や毎月1回行なう家族会で生活面、医療面等必要に応じて報告・相談をすると共に毎月発行の広報誌や職員の手書きの手紙などを送付することで個人に合わせた報告ができています。又、金銭については、出納簿により管理しており定期的に報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人の福祉サービス相談委員会を2ヶ月に1回行い苦情や相談を受けている。又、家族とは常にコミュニケーションを図り苦情や気づいた点や要望など意見の言える雰囲気作りをしている。(来苑カードにメモ欄がある)	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の実情や日々のサービスに対する意見や提案を聞く会議や話し合いを設け職員の声を業務の中に反映し働きやすく意欲ある職場作りをしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の勤務体制や必要に応じた対応ができるよう常に柔軟な調整に努めている。又、職員間も互いにゆずり合う関係にある。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者の混乱や不安を最小限にするためになじみの関係が築けるように専従職員において支援をしている。又、移動時においても他部署との交流で利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。尚、今まで移動しておいて入居者の混乱等は見受けられない。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体や各部署で勉強会を行い人材育成に取り組んでいる。又、外部研修へも適時参加している。	○	外部研修に出る職員はごく限られているが、職場内研修においては参加している。又、個別な段階に応じての計画も今後の取り組みとしたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームや他施設の職員の見学等の受け入れを行いお互いに情報提供を行ったりと交流を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。又、老社協のグループホーム専門委員会にも役員として活動し常に新しい多くの情報を得て質の向上に努めている。	○	グループホーム専門委員会での研修として、職員の交換研修が行われている。受け入れも行った。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務の中でストレスを軽減するために音楽を聴いたり、お茶を飲んだり職員同志の会話を楽しむ時間を設けて休める環境がある。	○	法人にはバレーボール部が2チームある。大分国体では日本一になった。職員はバレーの応援等を通してスポーツを楽しみストレス軽減にもなっている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	理事長や施設長、苑長は職員の相談や要望に常に耳を傾けて会議にも参加を頂いている。又、職員個々の努力や勤務状況の把握を行い、楽しく働ける為の取り組みをしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の希望により入所に至るまでは本人に逢って施設の説明をしたり、顔なじみになるなど安心して頂く関係作りをしている。又、本人の意志や思いを受け止めてあげる努力をしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居される前に必ず施設の見学を行ってもらっている。家族の立場に立って不安や戸惑いを受け止め施設の利点や本人にとってのメリットなど話し合う機会を設けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	○	<p>介護計画の見直しについては、県外の家族が多く出席できないことが多いが、希望やニーズを話し合う機会を設けている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	事実やケアの気づきをあるがままに記録し、職員で情報を共有している。又、ケアの必要性を把握し、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	他の医療機関への受診希望のある場合は主治医に相談して受診をしている。美容院等の外出など多機能性を活かした支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	安全で豊かな暮らしが楽しめるようボランティアによる訪問を受け文化に触れる機会を設けている。学校関係の学生の訪問やボランティアも受け入れている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	身体状況の低下に伴い、特養の入所希望のあるお客様に対しては担当のケアマネや家族との話し合いの機会を持って必要に応じての入所についての支援などを行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の委員として会議に出席をして頂いている。認知症を地域で支えるための地域資源ネットワーク作りに対して協力の意を持っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診が月2回ある。緊急時においても適切な医療が受けられている。又、家族の希望による専門外の他病院への受診等も紹介によりスムーズに連携が取れている。又、通院の介助も行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	ターミナルケアは実施していないが方針等は整備している。今後も内容等を確認しながら日々の支援に役立てたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	入居時においては新しいもの(家具)の持込は最小限にて、自分が落ちつける場所作りを継続したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常のケアの中で言葉や視線に配慮しプライバシーを損ねないように対応している。個人の記録物や情報については管理体制の中で保護されている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いや希望をくみ取り、自己決定の必要性や本人が納得し、喜びにつながるよう思いを引き出せる支援をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基とするスケジュールがあるが能動的に常に一人ひとりに合わせた生活パターンで個々のペースに合わせて本人の思いや希望を優先に支援している。	○ 声掛け誘導しないと日課を理解できない人が多いが、強制ではなく、本人の意に任せた支援を続けたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみやおしゃれは本人の状態の安定と生活意欲につながるため本人の好みや意向、持っている力を活かせるように支援し、美容院への外出や利用を行なっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は母体法人からの給食があるが盛り付けはGHで行う。週1回の選択食で選べる体制があり行事食についても対応できている。入居者の好みや希望を聞いて栄養士に献立に取り入れている。又、準備や片付けを一緒に行なうことによりその人の能力に合わせた力を活かし合っている。	○ 法人全体の月1回の給食会議において、お客様の食べたい物の希望メニューや注意点、要望なども話合っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ等にコーヒー、紅茶、昆布茶等のメニューを用意し一人ひとりの好みに合わせて日常的に楽しめるよう工夫をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者半数以上がリハビリPの使用者、一人ひとりの排泄パターンにより早めの誘導を行い失敗を防ぐ努力をしている。全員がトイレの排泄を実施している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ヒノキの浴槽で3回/週を目安に状態に合わせた入浴を行っている。又、気の合った人同士で入ったり、又、歌謡曲を流したりゆず湯やバラ湯など季節を楽しんでもらうなど工夫をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の自然なリズムで安眠できるよう日中の活動を促し、その時の状況で昼寝や早めの就寝など希望にそえる睡眠や休息ができています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の能力に合わせて楽しみや趣味など力を出せる場面を作り役割が負担にならないようし潜在している記憶を最大限に活かして支援をしている。	○	生活歴を活かした役割や楽しみ事が出来なくなる人が多くなる中、少しでも生活意欲が出せる取り組みを行いたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的には使うことはないが外出時には常に自由に使えるように支援している。又、苑内ではお金がなくなったときのダメージなども個々に話し合い共同生活の中での管理方法も常に相談し合っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には前庭でのリハビリ体操や散歩、又、美容院や買い物など出掛ける楽しみの中で気分転換などの支援を行なっている。市内からはずれていることもあり日常的には外出はしていない。併設施設での交流は常に行われている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別な支援になり行きたい所が不明な人も多い中、本人の希望により墓参りや自宅への訪問も計画はあっても実施になっていない。	○	家族の人の意見なども聞きながら毎月の計画の中に図ってみたいが、家族の同意は案外困難である。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮しながら本人の読んだり書いたりする力を活かし支援をしている。又、電話は日常的には全員ではないが、かかったりかけたりができるので外部との交流もできている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	誰にでもいつでも訪ねることができるよう訪問時間の制限はしていない。家族や友達など気軽に訪ねている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「カラダもココロも自由の施設です」「身体拘束ゼロ誓言」の施設として職員一同理解している。個々の尊厳と人権を守るために法人として拘束をしないケアを行なっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全面を強化するためにドアセンサーが作動する仕組みになっている。日常的には鍵がかかっておらず常に自由に入ることができる。又、出て行こうとする方については職員が同行するなどのケアをしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々の行動パターンを把握しながら常に見守っている。又、本人の状態や気持ちに添って安全に配慮している。夜間は2時間おきに居室見回り体制をとり、入居者の所在確認を行い安全を配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全て排除するのではなく特に危険な刃物や薬等は管理の中で使用するが生活上に交流すれば使えるものは一人ひとりの能力に合わせて身近に置いているものもある。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリはつと報告を行いながら事故防止に努めている。又、起きた事故は再発防止に取り組んでいる。毎月避難訓練を行い事故や火災を防ぐための努力をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	身体状態の急変や事故時に適切な対応ができるように話し合いをしている。	○	緊急時の対応マニュアルの勉強会のみで終わらず実技を兼ねた訓練を定期的に行なうよう計画する。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間計画に沿って毎月1回の避難訓練を実施している。法人が地域の避難場所になって過去の災害にもおり地域の協力が得られている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族会や身体状況の変化時において常に家族との連絡を密にし、リスクの発生状況の理解を頂いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常の中で「おかしい」と思ったらすぐに報告、早めの異常の発見に努め情報を共有している。又、毎日のバイタルの測定の記録を行い常に一人ひとりの普段の様子を把握を行なっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤薬を防ぐ為に職員間で常に話し合い一人ひとりが服用する薬を理解している。又、処方された薬は常にノートに記録されている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	予防策として毎日の歩行訓練や水分補給に心がけなるべく薬に頼らない働きかけに取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後のうがいや義歯の手入れの声掛け等個々に合わせ介助を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や亡くなった夫の位牌があり、本人の心を癒す居心地よい場所の工夫をしている。又、布団やダンスも使い慣れたものを使っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	自然の環境に近い状況の工夫をしている。換気、温度調整をこまめに行い快適に過ごせる工夫をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室→トイレ→居室へと手すりの設置にて自分の状態に応じて安全に移動できるように工夫をしている。又、トイレにも補助カバーが取り付けられている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室へ自分の表札を出し、他者との居室の間違いを防ぐ工夫をしている。又、トイレにも案内をしている。カレンダーも日めくりにて自分で確認できるようホールに掲げている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	前庭が広いのでベンチを設置、日向ぼっこや運動、又、花植えなどの作業の場として楽しみを共有する環境にある。		

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほほ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほほ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほほ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほほ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

長陽会の理念である、「地域の中で地域と共に生きる」をモットーに、常に本人の意思や自己決定を尊重し、日々の活動を通して自分の役割を持ち、豊かで安心して暮らせるよう、個々の持っている能力に対して最大限の力が発揮できる場所を提供する。ケアの視点として今「できること」を認めることで自信を持ち、何気ない日常を生きる幸せを重視し「生きがい作り」をしています。開苑以来、日常生活を写真に撮り一人ひとりのアルバム作りを行なっています。また、法人の年間を通しての各イベント、他部署との交流会を始めとする多彩な行事に参加し外出の機会を多く持っています。「グループホーム陽」は地域住宅の中に位置し、環境に恵まれた近隣の散歩など自然に触れる機会も多く「こころも身体も自由」な施設として開設8年目を迎えています。お風呂は木の香かおるひのき風呂を設置しバラ湯、茶湯、ゆず湯、葉湯などのバラエティーに富み、時には音楽や歌謡曲を流すなどの癒しの空間を提供している。私達は住み慣れた地域でその人らしく生きていく人間としての尊厳を大切にしながら、ISO9001・2000による質の高いサービスを提供し、ケアの充実を目指し豊かな普通の暮らしが継続できるよう支援しています。